

## 運輸部

日本の有人島で最南端に位置する波照間島は、地理的条件を生かした星空観測や神秘的な神事が数多く行われるなど、自然と歴史文化が融合した島として知られています。近年、その魅力ある波照間島を訪れようと観光客数も増加傾向にあり、船舶以外に移動手段がない島民からも早期の代替建造が望まれていました。

石垣〜波照間航路は52 kmに及び、波の荒い外洋を航行することから、船体の揺れが激しく欠航率も高いため、それらを解消することが大きな課題でした。

「ぱいばていろーま」は、水中翼を装備することで、航行中に船体が約1 m浮上するため波の影響を受けにくく高速での航行



総トン数 89トン

旅客定員120名

全長27.8m

幅6.7m

深さ2.3m

航海速力30ノット  
(時速約55km)

が可能となっており、併せて船体の前後に縦揺れ・横揺れを緩和する装置を装備することで、より安全で波に強い構造となっています。また、バリアフリーに対応した客席、トイレ、車いす置場を確保することで、高齢者などにも安全で快適な乗り心地の船舶となっています。

船体の右舷にはエンゼルフィッシュを左舷には波照間島で観察される南十字星をイメージした星のデザインが鮮やかに描かれており、船名も波照間小中学校の児童から公募するなど、地元への愛着と期待を乗せた「ぱいばていろーま」が就航することで、旅客及び生活必需品のさらなる安定輸送や観光振興にも貢献できるものと期待されています。



船内から開閉作業が可能な油圧式タラップ



平成8年より就航していた「ニューはてるま」(総トン数19トン・旅客定員80名)に代わり「ぱいばていろーま」(波照間島の伝説で理想郷の意味)が平成22年8月21日より就航しました。

# 石垣〜波照間航路に高速旅客船「ぱいばていろーま」就航